

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2018年度（前期）指定公募
「在宅医療推進のための学会等への共催」
完了報告書

「第15回山口県ケアマネジメント研究大会
日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会」

【申請者】

一般社団法人山口県介護支援専門員協会
会長 二井隆一

〒753-0072

山口県山口市大手町9-6 社会福祉会館4階

TEL (083) 976-4468

FAX (083) 976-4469

E-mail kaisenkyo@y-cma.jp

平成30年11月26日 提出

『第15回山口県ケアマネジメント研究大会』

『日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会』研修会報告書

内容 9:30 受付開始

10:00 開会式

主催者挨拶

来賓挨拶

10:15 永年表彰式

10:30 <研究発表>

第1分科会

- ・自分の想いを伝えられない方の意思決定支援における介護支援専門員の役割
- ・在宅看取りを支えるチーム作りと協働
- ・さいごの時をその人らしく過ごせるために
～独居、がん末期の利用者の支援を通して～

座長 (一社)日本介護支援専門員協会 常任理事 佐々木 啓太氏

助言者 済生会在宅複合型施設やすらぎ 顧問 松永 俊夫氏

第2分科会

- ・公正中立に関する介護支援専門員の意識調査
- ・地域の介護力についての調査
- ・住み慣れた自宅で二人の時間を大切に過ごしたい
～穏やかに最期を迎えていただくために専門職ができること～
- ・飯南町における看取りのケースを振り返って
～自宅看取りが身近な地域に向けて地域包括支援センターが果たす役割についての考察～

座長 (一社)山口県介護支援専門員協会 理事 山本 史彦氏

助言者 徳山大学 福祉情報学部 教授 徳重 柳子氏

12:15 昼食休憩

13:30 講演

「日本介護支援専門員協会活動報告」

講師 (一社)日本介護支援専門員協会 常任理事 佐々木 啓太氏

14:15 基調講演

「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす」

講師 東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター

上廣死生学・応用倫理講座 特任教授 会田 薫子氏

15:45 お楽しみ大抽選会

16:20 終了

共催 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

※本大会は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けて開催します。

【参加者】189名

【報告】研修会の感想

1. 研究発表の報告

平成30年10月27日、山口県山口市において「第15回山口県ケアマネジメント研究大会日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会」が開催されました。

大会当日は天候にも恵まれ189名の介護支援専門員及び多職種の方々に参加していただきました。

第1分科会では、3題のグループの研究発表が行われました。まず初めは「自分の想いを伝えられない方の意思決定支援における介護支援専門員の役割」というテーマで山口市の松井介護支援事務所の内田様より発表いただきました。人生の最終段階における利用者本人の意向を周りの支援者と共にチーム内で共有し、専門性を持って支えていくことがACPにおけるケアマネジャーとしての重要な役割であることが述べられました。

次に「在宅看取りを支えるチーム作りと協働」というテーマで広島県の居宅介護支援事業所のひらの越部様より発表いただきました。在宅における看取りを可能にするためには、多職種、家族を含めてチーム内連携を図り、利用者に寄り添える環境作りが大切であることが述べられました。

最後に「さいごの時をその人らしく過ごせるために」というテーマで岡山県の岡山居宅介護支援センター看護協会の竹内様より発表いただきました。単独世帯、認知症のある末期がんの利用者が在宅で最期を迎えるためには、本人と家族の意思の確認、及び医療系と福祉系サービスの連携の必要性が述べられるとともに、今後は民生委員等も含めた地域内での連携も必要になってくるのではとの提言がありました。

第2分科会では、4題の研究発表のうち2題が看取りについての発表でした。

まず、「住み慣れた自宅で二人の時間を大切に過ごしたい」というテーマで周南市の連携支援チーム周南の岡様より発表いただきました。高齢者や認知症など非がん患者も緩和ケアの対象であり、長期に渡る緩和ケアの延長線上に終末期ケアがあり、在宅での最期を支えるケアマネジャーとチームメンバーとの関わり方について示唆に富んだ発表をいただきました。

次に、「飯南町における看取りのケースを振り返って」というテーマで島根県の雲南地域介護支援専門員協会の嘉田様より発表いただきました。地域包括支援センターとして、日常から地域全体で対話の持てる環境作りに取り組みたいという話や在宅看取りを含めて利用者・家族を支える地域のケアマネジャーを今後も積極的に支援していきたいとの決意表明がありました。

第1分科会、第2分科会を通して、いずれの発表も、様々な利用者に対応した事例を実体験に基づき紹介する形で行われました。「7つのフェーズ」や「フレイルスケール」などの患者の様態変化のそれぞれにおいてケアマネジャーが果たすべき役割に真摯に向き合い努力された様子がよく分かるものでした。ケアマネジャーとして、利用者及び家族とコミュニケーションを十分に取り、その意向を確認すると共に、多職種と密接な連携を取り、情報を共有化する中で専門職としての知見を活かしながらケアを行っていく

事の重要性に改めて気づかされる発表でした。

2. 基調講演の報告

東京大学大学院人文社会科学研究所 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授 会田薫子氏による基調講演では、「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす」というテーマで講演いただきました。

初めに、ADではなく ACP の重要性を説明する中で、ACP 質問紙の紹介がありました。質問紙の必要性は疑いがないものの、書面作成がゴールではなく、大切なのはそれを利用したコミュニケーションの促進と治療に有効に活用することだと述べられました。ケアマネジャーが ACP ファシリテーターを務めるという「山口モデル」を全国発信していただきたいとの激励もありました。

また、その後高齢者医療におけるフレイルの重要性が述べられました。フレイルになった際には緩和ケアのアプローチが大切になってくること、更にフレイルが進行したらエンドオブライフ・ケアも射程に入れて行動することも視野に入れる必要があり、ケアマネジャーがそういった意思決定支援の要となってくださいとのお言葉がありました。

ケアマネジャーにとって今後の実践に活かせる貴重な情報を得られる講演会となりました。

謝辞

末筆になりましたが、本研修の開催が実現できたのは、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団様の助成支援のお陰であることを心より感謝申し上げます。

第15回山口県ケアマネジメント研究大会 日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会 大会風景



午前 開会式



研究発表（第1分科会）



研究発表（第2分科会）



ロビー風景



午後 基調講演



お楽しみ抽選会